平成２９年度学校自己評価計画　　（中間結果）　　石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み		主担当	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	中間結果	分析（成果と課題）
①	組織的なキャリア教育の取組の推進	①	一般就労や職場実習先開拓として企業訪問を行う。	進路支援課	［成果指標］ 今までの実習先、訪問先以外に１０社以上訪問する。	５段階の評価 Ａ：　１０社以上 Ｂ：　８～９社 Ｃ：　６～７社 Ｄ：　５社以下	Ｂ ９月現在、８社（事業所）の訪問を行った。	８社の内、職場実習が行えるのは３社。ただ、雇用につながるかはまだ、未知数である。
②	特別支援教育の専門性と指導力を高める校内体制の充実及びセンター的機能の充実	①	スマートスクールネットを閲覧して授業に活用したり、輪島分校として教材等を投稿したりして、指導力の向上を促す。	学習支援課	［成果指標］ 活用状況を点数化し評価する。 １点　Webサイトを閲覧した ２点　スマートスクールを活用し授業や活動を行った ３点　教材教具や授業の単元の流れなどの教育情報を投稿した	職員（16 名）の合計が Ａ：４６点以上 Ｂ：３０～４５点 Ｃ：１６～２９点 Ｄ：１５点以下	Ｃ 中間アンケートにより合計１７点であった。	３点は０名、２点は５名、１点は７名、０点は４名という結果であった。すべての教員が２点以上となるように、利用の仕方や良さを伝えていく。
		②	地域の関係機関や外部専門家と連携し、校内外で専門性と指導力を高める研修会を実施する。	自立支援課	［成果指標］ 研修会を実施した回数で評価する。	研修会の回数が Ａ：８回以上 Ｂ：６～７回 Ｃ：４～５回 Ｄ：３回以下	Ｂ ９月現在 校内５回 校外１回	金沢星稜大学・河野教授の講演会を輪島中で実施。金沢リハビリテーションアカデミー曽山ＰＴ・精育園平譯ＯＴの活用、個別の教育支援計画、課題設定のポイント、サイン言語についての校内研修会を実施した。今後も平譯ＯＴ・河野教授の活用を４回予定している。

重点目標		具体的取り組み		主担当	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	中間結果	分析（成果と課題）
③	地域の学校との交流の促進	①	門前高校校舎への移転に伴い、門前高校、門前中学校、門前東小学校など近隣の学校と、各学部で、または全校で様々な交流を図る。	学習支援課	［成果指標］ これまでの交流の形だけでなく、新たな交流の形も模索しながら、各学部での交流や学校全体での合同開催などを回数で評価する。	各部、全校での交流や活動が Ａ：１３回以上 Ｂ：１０回～１２回 Ｃ：７回～９回 Ｄ：６回未満	Ｄ ９月現在で３回実施。	全校として門前高校文化祭に参加した。小学部は門前東小と１回、高等部が門前高校と１回行った。 二学期には輪島分校文化祭に門前高校が参加してもらう予定である。小学部が門前東小及び門前西小と中学部が門前中と交流を予定している。高等部も授業交流を実施予定である。
④	学校安全教育及び環境教育の推進	①	児童生徒の健康の保持増進のため、家庭との連携を密にし、健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	生活支援課	［成果指標］ 家庭向け保健だより発行回数、ホームページ掲載回数で評価する。	家庭向け保健だより、ホームページ掲載回数がともに Ａ：２０回以上 Ｂ：１５回 Ｃ：１０回 Ｄ：１０回未満	家庭向け １１回 ホームページ８回	1学期は、毎月保健だよりを発行。歯科指導実施後には、その様子や歯の染め出しをした結果を個別に発行した。個人情報がある内容のものはホームページに載せなかったので8回となった。2学期も、毎月の保健便り発行を目指すとともに、保健指導後にはその様子を個別に発行する予定である。また、手洗いの方法・歯みがきの方法もホームページに掲載する予定である。
		②	門前高校との交流を通して、地域の里山、里海と関わり合う活動を行う。	生活支援課	［成果指標］ 門前高校との環境教育に関する交流活動を行った回数で評価する。	交流活動した回数が Ａ：５回以上 Ｂ：３～４回 Ｃ：１～２回 Ｄ：未実施	Ｄ	高校との交流は未実施。公民館、夢かぼちゃなど地域との交流活動は実施できた。高校とは９月下旬の活動が最初の交流となる。